令和５年度　第１回茅ヶ崎市総合教育会議　会議録

議題	デジタルアーカイブやアプリケーションを活用した社会教育の推進について（視察及び意見交換）
日時	令和５年１０月１９日（木）午後１時１０分～午後２時１５分
場所	茅ヶ崎市博物館
出席者氏名	総合教育会議委員 佐藤市長　竹内教育長　赤坂教育長職務代理者　伊藤委員　大森委員 中馬委員 （事務局）機構順 坂田企画政策部長　岩井企画政策部総合政策課長　須藤企画政策部総合政策課課長補佐　渡辺企画政策部広報シティプロモーション課長　吉川経済部長　青木経済部産業観光課長　大竹文化スポーツ部長　菊池文化スポーツ部文化推進課長　白鳥教育総務部長　関教育総務部教育総務課長　髙橋教育総務部教育総務課課長補佐　村上教育推進部長　伊勢田教育推進部社会教育課長　須藤教育推進部社会教育課博物館担当課長兼館長　小松教育推進部社会教育課博物館館長補佐　松岡教育推進部図書館長
会議資料	・次第 ・資料１　茅ヶ崎版デジタルアーカイブ ・参考資料　まち歩きアプリ「てくてく探偵茅ヶ崎」
会議の公開・非公開	公開
傍聴者	０人

〇教育総務課長

本日は、お忙しい中会議にご出席をいただきましてありがとうございます。第１回総合教育会議を開催したいと思います。

議題は「デジタルアーカイブやアプリケーションを活用した社会教育の推進について」です。概要の説明の後、博物館館内の様子を視察していただきます。その際、展示と連動したデジタルアーカイブの活用例を実際にご覧いただきます。本日、ちょうど今宿小学校の３年生児童が博物館見学をされます。子どもたちの博物館利用の実際の様子もご覧

いただき、その後の協議に臨んでいただきたいと思います。

なお、本日、本会議の傍聴希望者はおりません。それでは、ここからの議事進行につきましては、茅ヶ崎市総合教育会議運営要綱第３条に基づきまして、本会議の議長であります佐藤市長にお願いをいたします。

○佐藤市長

皆さん、こんにちは。それでは、次第に沿いまして、本日の会議の議題について説明をお願いします。

○教育総務課長

本日の会議のテーマは、「デジタルアーカイブやアプリケーションを活用した社会教育の推進について」です。

約７０年ぶりの改正となりました、令和４年度の改正博物館法では、博物館の事業に博物館資料のデジタルアーカイブの作成と公開が新たに位置付けられ、また、これからの博物館の役割として、地域社会への貢献のため、教育や文化の域を超えて、まちづくり、観光、福祉、国際交流といったさまざまな分野との連携に努めることが謳われています。

改正博物館法を踏まえ、本市では、博物館だけではなく、図書館及び市史編さん担当が所有又は管理する歴史的価値のある資料を公開し、オンラインで閲覧することができるデジタルアーカイブ「ちがだべ」を実装するとともに、その資料を活用し、歴史・文化を学ぶ講座、学校の調べ学習及びまちの周遊促進などに、スマートフォンなどから活用できるアプリケーション「てくてく探偵茅ヶ崎」を教育委員会と市長部局で連携し、開発を進め、本年度より稼働開始いたしました。

博物館をはじめとした社会教育分野や、学術的な利用はもちろんのこと、さまざまな分野で広く市民の皆さんに活用いただくことが、今後のテーマと考えており、本日のテーマとさせていただきました。

それでは、博物館長より本市のデジタルアーカイブ及びアプリケーションの概要説明をさせていただきます。

○博物館担当課長兼館長

博物館長・須藤です。皆さま、本日はどうぞよろしくお願いいたします。まずはじめに、今年度４月から運用を開始しておりますデジタルアーカイブ、ポータルサイト、アプリケーションについてご紹介させていただきます。特にデジタルアーカイブとそれを活用することについてお話させていただければと思います。

（博物館　紹介動画を上映）

令和４年７月３０日に開館いたしました、茅ヶ崎市博物館は、これまで累計５万８千人の方々にご来館いただきました。展示会やワークショップなどの教育活動を行うとともに、デジタルアーカイブを構築し、それらを活用するための環境を整備いたしましたので、ご紹介させていただきます。

現在、運用しておりますのは、まち歩きアプリ「てくてく探偵茅ヶ崎」及びポータルサイト、デジタルアーカイブです。

事業のコンセプトについて、ご説明いたします。国のデジタル田園都市国家構想に基づき、博物館、美術館、図書館及び文化推進課市史編さん担当が所蔵する、実物資料や写真などの知的財産を保管し公開することができるデジタルアーカイブを構築いたしました。

スマートフォンアプリは、アーカイブを活用し、市内スポットを訪れた利用者が情報を収集するなど、気軽に楽しみながら学んでいただくアプリとなっております。また、アーカイブやアプリを活用した事業を行うために、Wi-Fi 環境を図書館や公民館といった社会教育施設に整備しております。

この事業取組のメリット、期待できる効果についてご説明いたします。首都直下型地震など、本市に大きな被害をもたらす災害に備え、市の知的財産を守り、復旧・復興に向けた準備といった強じん化や、新型コロナウイルスのような新たな感染症のまん延などの際における児童生徒の学習の継続、小中学校における総合的な学習の時間、社会科などで行われる郷土学習への活用、博物館や図書館、公民館、青少年会館といった社会教育施設における講座や教育普及活動への活用、大学などの研究機関における研究への活用、といったメリットがあげられます。

デジタルアーカイブで公開している資料は、全て許可なく自由にご利用いただくことができます。単なる学習の素材として使用するだけでなく、利用者自らが考え、積極的にクリエイションなどの創作活動や文化創造などにご利用いただくことを期待しております。

スマートフォンアプリ「てくてく探偵茅ヶ崎」についてご説明いたします。アプリでは、博物館からのお知らせを簡単に見ることができ、またアプリ内の機能を使って、楽しく気軽に学ぶことができます。「まち歩きスタンプラリー」では、市内の文化財や文化施設、おすすめのスポットを周るコースが設定されており、各ポイントでクイズに挑戦して

スタンプを集めることができます。「スポット検索ナビ」では、現在地周辺の文化財や公共施設を地図上で検索することができます。また、周遊マップ、地域情報サイトなどのおすすめスポットの情報も見ることができます。

続いて、デジタルアーカイブについてご説明いたします。デジタルアーカイブ「ちがだべ」では、博物館、市史編さん、美術館及び図書館が所蔵する収蔵品を、画像を閲覧できます。スペシャルコンテンツでは、ＶＲや３Ｄコンテンツをご覧いただけます。ＶＲツアーでは、実際に中に入って観ることができない、旧和田家住宅や旧藤間家住宅、氷室邸など文化財である民家の中をご覧いただくことができます。３Ｄ機能では、博物館に実際に展示している資料を手に取っているかのように観察することができます。博物館で実物を前にじっくり観たり、おうちでゆっくり観たり、何度でも気軽に楽しみながら学ぶことができます。茅ヶ崎市博物館のポータルサイトでは、先ほどご紹介したＶＲなどを含め、多くのコンテンツをご利用いただけます。

今回、博物館、美術館、図書館及び市史編さん、それぞれで所有する資料をデジタル化し、ひとつのデータベースにいたしました。市の中で完結するのではなく、ジャパンサーチと連携しており、本市の知的財産を日本全国だけでなく、世界中からも検索できるようになっております。現在、コンテンツの充実化に取り組んでおります。多くの皆さまにご利用いただき、教育分野をはじめ、文化創造、地域活性など、さまざまな分野で活用していただけると思います。

詳細はスライドでご説明させていただければと思います。お手元の資料１と同じ内容でございます。

当館のテーマは「大地と人の物語」です。「海と川と道が交じり合う茅ヶ崎の大地と、その中で連綿と続いてきた人びとのくらしとその物語を市民とともに探求し、守り、生かす」。市民の方々のお手伝いができることをサブテーマに掲げて教育普及に努めております。

活動の基本方針ですが「市民・利用者とともに考え、活動し、成長する資料館」を謳っております。調べる、集める、そして伝える、という博物館の教育活動を相互に結びつけ、それらの全てを市民・利用者に開き、協力と連携により進めていきます。そして、地域の博物館として地域に根差した活動に取り組みます。その一方で、地域遺産の探求や発信に当たっては市域を超えて活動を展開します。自然と歴史・文化をさまざまな学問分野から横断的に扱うことにより総合的な観点から捉えます。また、現在、非常に力を入れて

いるのですが、専門的な知識の有無にかかわらず、市民・利用者の一人ひとりの関わり方、興味や関心のあり方に応じ、それぞれの立場で学ぶことができる活動を展開します。市民の皆さまに親しんでいただき、「普段使い」していただけるような取り組みを拡大しているところです。

先ほども動画で一部出てまいりましたイメージ図ですが、本市が構築したデジタルアーカイブに蓄積した資料は、ジャパンサーチと連携することで、世界中に発信されています。ジャパンサーチは国立国会図書館が進めており、さまざまな大学など調査機関がデータを掲載して相互利用しております。アクセス状況をみると、今朝も韓国やアジアから、当館の「ちがだべ」にアクセスがありました。

こうしたデータは、教育コンテンツだけでなく、観光分野であれば観光コンテンツとしてインバウンド需要への活用や、市民の皆さまの活用によって地域活性につながることが期待されます。他にも、関東大震災のデータも数多く蓄積していますので、防災教育への活用も考えられますし、仮に災害が起きてしまい、市内の文化財が滅失してしまった場合にもデータでの記録保存が可能となります。市史編さんの資料が中心ですが、古いまちなみや当時の人々の暮らしの様子の写真などは、回想法を用いて高齢者の認知症対策に活用されるケースもあります。また、民間事業者の出版や広告にも利活用が可能ですので、多方面での活用が期待されます。そのように、さまざまな事業効果が考えられますが、現時点では、そうした知的財産を活用した２次利用の促進を目指しています。今日の小学校の見学でも、先生がGIGA端末をお持ちになられて、必要に応じて写真を撮影されるなど、学校利用されると聞いております。今後、観光、防災、シティプロモーション、大学の調査研究等、さまざまな分野に、我々の想像しえない活用が生まれると幸いと考えております。

以上、まずは今回構築したデジタルアーカイブ等の概要を説明させていただきました。

○佐藤市長

説明が終わりました。それでは、これから、博物館内の視察に移ります。

（館内視察　13：25～13：55）

○佐藤市長

それでは次第に沿いまして、意見交換に入りたいと思います。本日の意見交換の視点

は、大きく２点と考えております。

１つめは、デジタルアーカイブやアプリケーションのまちづくり、観光・文化における活用の可能性。２つめは、デジタルアーカイブやアプリケーションの学校教育における活用の可能性です。

皆さんから自由にご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○伊藤委員

ありがとうございました。とても工夫されている博物館で、ここだけで終わるのではなくて、お話を聞いていましたら、ここで観たものを持って帰って、そして、また自宅に保存して、また学校で振り返りができる、と。振り返りをしたことを使って、たとえば新聞を作るというようなことができるので、「総合的な学習の時間」につながる内容なんですね。ですから、ただ観に来るだけではなくて、それを持ち帰ることができる、シナリオを作るとか、どんどん広がる可能性を持っている博物館で、素晴らしいなと思ったところです。よろしくお願いします。質問はいくつかあるので、それは、また後でお願いします。

○赤坂委員

視点とはちょっと直接関わらないのですが、質問がいくつかあります。まずは今日、須藤館長さんと学芸員さんが、いきいきと働いておられる様子を見ることができて、本当にうれしくなりました。そこで、学芸員さんは何人在籍していらっしゃるんですか？

○博物館担当課長兼館長

正規職員の学芸員が２名、会計年度任用職員の学芸員が３名で、総勢５名です。

本日、今宿小学校の対応をしているのは４名です。旧和田家住宅で２名対応している者がおり、館内で２名です。

○赤坂委員

その人数で十分対応できているということでしょうか。

○博物館担当課長兼館長

はい、そうです。

○竹内教育長

では、まず感想です。子どもたちの様子を観ると、皆、興味津々で、博物館を見学していたのかな、と感じました。子どもたちの「資料をもっと大きく観てみたい」とか、「中がどうなっているのだろうか」とか、そういう関心の高さを観ることができたのではないかと思います。直接、手を触れることができない展示品ですと、デジタルアーカイブ

などを活用して、角度を変えて観たり、大きさを変えて観たりとか、興味関心に沿った動きができて、とても分かりやすくていいなと思いました。もっとたくさんデータの蓄積ができるといいなと思ったのですが、それはそのようにしていく予定ですか。

○博物館担当課長兼館長

コンテンツをいかに増やしていくかが重要であり課題であると考えています。博物館には、約９万点を超す資料を収蔵しており、市史編さん担当、美術館、図書館も多くの資料を収蔵し保管しております。データベースのコンテンツを増やし、デジタルアーカイブの充実化を進めてまいりたいと考えております。

○中馬委員

今日はありがとうございます。本当にとても楽しいなと感じましたし、それが子どもたちからも、すごく伝わってきました。クラスで見学していると、いろんな意見や声も出てきて、「そういう発想になるんだ」という学びがあるから、このようなみんなで一緒に同じことを学ぶということが、総合的な学びというのかなと感じました。茅ヶ崎の歴史を学ぶだけではなくて、いろいろなみんなの考え方をまとめていける機会があって、すごくよかったですし、子どもたちがとても素直で良い表情をしていて、それを近くで観ることができて、とてもうれしかったです。

個人的にも、茅ヶ崎市の昔からの地形の写真の積み重ねの展示はイメージがわきましたし、大人も新たな学びになるのだなと感じました。小さいお子さんと一緒に来られると一緒に学べて、とても楽しいのではないかと感じました。

あと、デジタルアーカイブですが少しだけ二次元コードを読み取って使ってみました。感触はないけど、触っているような気分になれて、こういう新しい見方があるんだなと感じました。やってみる前は、実物とデジタルアーカイブと二つ観てどうするのかなと思いましたが、実際に読み取ってみて、こういう学びがあるのだなと分かったので、これからコンテンツを増やしていくことは大変だと思いますけど、増えていくことがすごくいいことだなと思いました。

○大森委員

どうもありがとうございました。一度訪れたのが、まだ何も展示するものがない状態のときにお邪魔させていただいて、その後、今日まで来ることができませんでした。今日はじめて資料が展示されているのを観て、大変、中身の充実性を感じました。

それから小学生の見学を観て、とても児童の興味津々の顔を観ることができました。

これからいろいろな形で活かされることを願っています。

あと、今日は児童への学芸員さんの説明がありましたが、家族や個人で来た場合、学芸員さんの説明は受けられるのでしょうか。

○博物館担当課長兼館長

はい。お求めがあった場合は、博物館の学芸員が解説を行います。２週間に１回程度、ギャラリートークと申します展示解説を行っております。その際にご来館いただければ、じっくりと展示解説を聞くことができる取り組みも行っております。開催日時などの情報は、ＳＮＳ等で発信しています。

また、決まった時間に限らずとも、お声がけいただければレファレンス対応や展示解説を行っております。

○大森委員

安心いたしました。声をかければ、お時間があれば説明を受けられるということですね。すごくいいことだと思います。

それから、高齢者目線での意見なのですが、伺う前に、デジタルアーカイブの機能について、利用することは、貴重な財産を文化として残すということで、とても重要だと思っておりました。ただ、高齢者目線でいうと、便利になっている機械をうまく使いこなせるかというところで苦手意識も個人的にはあります。こういう世代の人にも使いこなせるようなことができるようになるとうれしいなと思います。ありがとうございました。

○佐藤市長

他に何かご質問等ございますか。

○伊藤委員

「スポット」という単語が出ていたと思うんですが、具体的に「スポット検索」とか、「スポット」というのは、茅ヶ崎市内にいろいろなところに、いろいろなポイントがあって、そこに行くと何か情報が入るとか、そういうことなのでしょうか。

それから、「普段使い」ということをおっしゃっていたと思うんですが、その点についてお話をいただければと思いました。以上です。

○博物館担当課長兼館長

ありがとうございます。「スポット」という言葉を多用しましたが、博物館の中にとどまるだけでなくて、地域の中に自然や、歴史・文化の痕跡は多くあります。そういった場所・地点やエリアのことを「スポット」と呼んでおります。

アプリ「てくてく探偵茅ヶ崎」はグーグルマップと連動しております。例えば、この近傍地にございます下寺尾遺跡群、堤貝塚、里山公園、清水谷戸、柳谷戸といった行きたいスポットを選ぶと、現在地から目的のスポットまでの経路がグーグルマップで分かる機能もございます。GIGA端末に限らず、皆さまがお持ちのスマートフォンを使って、「行きたいところがあるかな」と探したときに、観光スポット、自然スポット、文化財、社寺仏閣などにたどり着けるようになります。

「普段使い」ですが、社会教育施設には、博物館、公民館、図書館などがございます。その中で、図書館は本を媒体とした学びを提供しているので、すごく皆さんの日常生活に溶け込んでいると感じています。一方で、博物館はこれまで、普段は見られない特別なものが観られる特別な場所。ですので、特別なときに行くという使われ方をしてきたように思っています。国立や県立などの大きな博物館はそういった形でいいのかもしれませんが、ここは市の博物館なので、普段から「日常使い」、日々の生活に溶け込んだかたちで、たとえばテレビで海のニュースを観たら「ちょっと博物館に行けば、海のこと知れるんじゃないか、行ってみようか」といった感じで、日常の中で気軽に使っていただけるようにと思い、「普段使い」という言葉を使わせていただきました。

〇赤坂委員

新しい博物館のテーマ、素晴らしいと感じました。「市民とともに探求し、守り、生かす」。本当に素晴らしいテーマだと感じました。

そこで、質問なんですが、今日は今宿小学校が見学に来ていますけれども、茅ヶ崎の小学校１９校は、全校来ていますか？

〇博物館担当課長兼館長

現時点ではすべては来られていないのですが、遠足のシーズンが春・秋ということで、現在、多くのご予約をいただいております。現在、全体の約３分の２の小学校の予約をいただいているところです。

〇赤坂委員

素晴らしい博物館なので、私は小学３年生の社会科の郷土学習で、まず１回来てもらいたい。そして、今度は小５か小６の「総合的な学習の時間」の一環として、もう１回来てもらいたい。小学校で２度行くなんて、無理ですかね？

〇教育長

できないことはないかと。

○赤坂委員

ぜひそのくらい、２回ほど来てほしいと思います。

○博物館担当課長兼館長

この近傍の小学校は来ることはあるのですが、高学年になると来る機会が減ります。また、小学生ではないですが、中学生が職場体験学習で来ることがあります。教育分野に興味があるお子さんたちが、ここで学芸員の仕事を体験するのに来られます。

○竹内教育長

ぜひ博物館を、子どもたちに「普段使い」してほしいと思いますね。

質問なのですが、デジタルアーカイブやアプリケーションの取り組みは、今後、たとえば観光や、地域の活性化につながっていく可能性が秘めていると思うんですね。その中で、現在、具体的に進められるのではないかと思っているようなこと、地域や商業の発展につながることなどについて、何か話し合っていることや、方向性などがあれば、経済部からもお話を聞かせてもらえるとありがたい思うのですが、いかがでしょうか。

○産業観光課長

産業観光課の青木です。こちらのアプリケーションは、庁内各部が連携・協力して製作いたしました。観光目線で言いますと、旧和田家住宅、旧三橋家住宅、博物館など、いろいろな施設それぞれが、文化施設でもあり観光施設でもあるという両面を持っています。その中で、観光とは、施設の観光だけするのではなくて、それに付随して、周辺でおみやげや野菜を買ったりします。そういった施設観光に付随する観光の施設が、アプリの中で落ちていれば、観光アプリとしてより機能する気がしています。今回このアプリは、メインが教育用の作りからスタートしていますので、残念ながら、まだおいしい食べ物屋さんなどのスポットを載せられていないので、それは今後の課題として認識しております。

○大森委員

先ほど「日常に溶け込む」というセンテンスを伺いましたが、館内に「ミニ展示コーナー」というものがありまして、この間の台風の後の漂流物の展示がありました。まさに、これがそうかと思いました。ただ、ここへ観に来て「こういう展示の仕方があるんだ」と分かりましたので、行く前に、事前に、何かそういうメッセージがあると、より興味がわくんじゃないかと感じました。

それから、これらのアプリケーションなどは全国の博物館のさきがけになるような、

先進的なものなのでしょうか。すでに全国的なものなのでしょうか。いずれにしても、とても感心しました。

○博物館担当課長兼館長

いくつかの自治体で先進的に導入したものを、茅ヶ崎に合った形でカスタマイズ、茅ヶ崎仕様にして導入したものです。ですから、技術としては最新のものを、茅ヶ崎オリジナルにして導入したという意味で、オンリーワンと言えるかと思います。

○佐藤市長

他にありますか。

先ほど、伊藤委員の質問で、スポットで里山公園を紹介するというのお話があったのですが、里山公園で博物館の紹介はしていますか？

○博物館担当課長兼館長

残念ながら、現時点、依頼を行っておりません。

○佐藤市長

里山公園もいろいろなワークショップなどをやっていますから、博物館から紹介するだけでなく、あちらからも博物館の展示のことを具体的に紹介し合えると、相乗効果も出るでしょうから、よく連携をしてください。

○博物館担当課長兼館長

はい。

○佐藤市長

では、他になければ、事務局より事務連絡をお願いいたします。

○教育総務課長

皆さま、お疲れ様でした。次回の総合教育会議については、年明けの１月１８日に開催させていただく予定です。 詳細につきましては、後日、事務局よりお知らせします。以上でございます。

○佐藤市長

それでは、本日の日程はすべて終了しましたので、第１回総合教育会議を終了します。本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。